

「移民」を教材化する 第一歩

～修学旅行の事前学習の一環として～



氏名：小沢 智子

学校名：山梨県立甲府城西高等学校

担当教科：日本史 A

実践教科：日本史 A ・ 総合的な学習の時間 ・ LHR

時間数：4 時間

対象学年：2 年次

人数：36 人

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

ブラジルへ渡った沖縄移民を通して、日本にルーツをもつ人たちが地球の反対側に 190 万人も存在しているという事実に関心と課題意識を高め、歴史的背景を踏まえて理解する。現在、「日本だけでなく、諸外国においても外国人労働者が増加している」という現象を、「移民」というキーワードとともに、世界の動向と関連付けて捉え、「共生」や「異文化理解」について SDGs と絡めて考察する。また、ブラジルと沖縄を関連付けることで、ステレオタイプの「沖縄への修学旅行の事前学習」から脱却し、歴史教科書(特に日本史)からスッポリ抜け落ちている「移民学習」という分野を補い、沖縄を多面的・多角的に捉えさせることに挑戦する。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に対する関心を高め、意欲的に追究している。

(イ) 思考・判断・表現

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状について、多面的・多角的に考察するとともに、世界の動向と関連付けて公正に判断し表現している。

(ウ) 技能

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に関する文献、新聞、絵画、地図、写真、統計・グラフなどの諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用することを通して、追究し考察した過程や結果を適切にまとめている。

(エ) 知識・理解

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に関する基本的な事柄を、国際状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

【3】単元設定の理由

- ✓ 児童生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

「修学旅行の事前学習を、もっと違う切り口で展開することはできないのか」というジレンマから、この研修を手掛かりにして「ブラジルというフィルターを通して沖縄を捉えさせる」ことに挑戦しようと考えた。そのため、私が専門とする日本史の学習と修学旅行の事前学習とをタイアップさせて、現在に至るブラジルと日本、沖縄の関係を多角的に捉えさせ、教科指導にも修学旅行の事前学習にも応用できる手法を開発したいと考えた。昨年、オリンピックが開催され、注目された国ではあるが、歴史教科書(特に日本史)には、日本とブラジル両国に関する記述はほとんどない。このような現状の中で、沖縄移民が日本とブラジル両国に及ぼした影響についてとりあげることは、現代社会が抱える諸課題が歴史的に形成されたものであることを知る格好の題材であり、「共生」や「異文化理解」を考える糸口になるのではないかと考えた。

実践授業を実施する2年次生は、ちょうど日本史 A の授業において、日本が近代国家として成立していく過程を学習しており、「国家」「国民」「民族」について意識が高まっている。そのため、実践授業で

<p>1</p> <p>○先生が行ってきた「ブラジル」ってどんな国？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルの基礎知識を学び、ブラジルに関心をもつ ● ブラジルの多様性の中から、日本とのつながりを意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事前に実施した「ブラジルのイメージ」に関するアンケート結果と、作成したカラーージュを活用して、ブラジルのイメージをクラスで共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒達は「サッカー」「サンバ」「黒人」というイメージをもっていることが分かった。 ◆ ブラジルに関する基礎知識を確認する。（国の位置・時差・首都・国旗・言語・歴史など） <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒達にほとんど基礎知識がないということが分かった。 ◆ 実践者が現地で撮影した写真を見て、ブラジルへの興味関心をひろげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アマゾン川の合流地点の写真やシュラスコ（食べたことがないと言う生徒多数）に興味津々であった。 ◆ カラーージュの写真でフォトランゲージを行い、ブラジルの多様性を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先入観から黒人に目が向く生徒が多い中、日系人の写真から、日本とブラジルのつながりに気付いた生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自作アンケート ・生徒作成のカラーージュ（ブラジル編） ・生徒作成のカラーージュ（沖縄編） ・現地で撮影した写真 ・地球儀 ・自作プリント①
<p>2</p> <p>○「移民」の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルへの移民の歴史を、日本国内だけの現象と捉えるのではなく、世界の動向と絡め、「世界の中の日本」という視点で捉える ● 移民に関する写真と音楽から、ブラジルに渡った人々の生活がどのようなものであったかを知る ● ブラジルと沖縄の深い関係性に気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前の時間に気付いた「日本人ぽい人」について、アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」を見て、ブラジル移民の歴史を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アニメの内容を確認する。 ・ 移民の歴史的経緯を、日本史の授業で得た知識とともに、世界史や地理と関連させて考察する。 ◆ ブラジル移民に関する写真と音楽から、ブラジルに渡った人々がどのような境遇であったかを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 移民がおかれていた状況について、フォトランゲージを行い、移民の生活を知る。 ・ 曲を通して当時の人々に思いを馳せ、生徒達が「あんまり関係ない」と認識している沖縄とブラジルをリンクさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」 ・フォトランゲージ用の写真（コーヒー園での労働の様子）（大木と移民） ・BEGIN「帰郷」の音源と歌詞 ・自作プリント②
<p>3</p> <p>○「日系人」って？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルでの日系人の評価を考察する ● 移民の「陰」と「陽」を知り、両面性を理解したうえで判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ブラジルにおける「日本からの移民」と「その子孫(日系人)」の評価を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「リオオリンピックの開会式の映像」で、映像ランゲージ。日系人が紹介されたことの意味を考える。 ・ 大村智さんがノーベル賞授賞式でスウェーデン王妃と話した内容から、日系人の活躍の分野を知る。 ・ 「ジャポネース・ガランチーノ」の意味を考える。 ◆ ブラジル以外の移民先では、どうなのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界のウチナーンチュマップ」から、沖縄移民はブラジルに一番多く、ブラジル以外の世界にも雄飛している状況を 	<ul style="list-style-type: none"> ・リオオリンピック開会式の映像 ・現地で撮影した写真（シュラスコ・フェイジョータ、満生さんの畑） ・「世界のウチナーンチュマップ」 ・ブラジルへ入

		<p>読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮沢さんの「島唄はアルゼンチンでヒットした」というエピソードを振り返る。 ボリビアの「オキナワ」を紹介する。 教科書p79(第一学習社『高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来』)から、ハワイの移民に注目→ハワイの空港名が「ダニエル・イノウエ国際空港」に変更されたことから、ブラジル以外の国での日系人の評価を意識する。 <p>◆ 移民の「陰」と「陽」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドミニカ訴訟の例を挙げ、必ずしもすべての移民が成功したわけではないことにも触れる。 <p>◆ 「自分がケンイチだったら何ができる？」について、それぞれの立場で考え、友達と意見交換する。(ケンイチは、アニメ映画『100年前のブラジルにタイムスリップ!』の登場人物で、静岡県浜松市の中学生。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表する際は、必ず理由を述べる。 	<p>植した国別人口表</p> <ul style="list-style-type: none"> ボリビアの「オキナワ」の地図 ダニエル＝イノウエの写真 自作プリント③
<p>4 本時</p>	<p>○18個目のSDGsをつくってみよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分だったら…」と共感的に考える 地球市民としての自覚を育てる <p>○本時のまとめを書くことで、これまでの移民学習を振り返る。</p>	<p>◆ 前の授業で発表した友達の考えを再度クラスで共有する。</p> <p>◆ 「自分がファビオだったらどうして欲しい？」について考え、友達と意見交換する。(ファビオは、ケンイチが在籍する中学校にブラジルから転校してきた。日本語が分からない設定。)</p> <p>◆ ケンイチとファビオの立場にたち、(まだSDGsが何なのかを説明せず)17のSDGsの中で「どれが最も大切か？」を、グループで考えてカードを一つ選び発表する。</p> <p>◆ SDGsについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピコ太郎の動画を見て、世界で目指す目標にはどんなものがあるのかを確認する。 あまりピンとくるものがないようであった。 <p>◆ 2人の立場にたって考えたことを踏まえて、「移民」に関する18個目のSDGsを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロゴやキャッチフレーズで表現する。 短時間であるが、出来上がった作品を紹介する。 <p>◆ 沖縄の歴史に「移民の歴史」があることを再確認し、修学旅行で南風原文化センターへ行く意義を見出す。</p> <p>◆ 本時のまとめ・感想を記入させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> SDGsのカード 生徒作成のコーラージュ(沖縄編) 生徒作成の壁新聞 ホワイトボード クーピー 自作プリント④
<p>0</p>	<p>○南風原文化センター見学</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学することで、「沖縄移民」について理解を深める 	<p>◆ 南風原文化センターを見学しながら見学記録シートを記入することで、これまでの学びを振り返り、移民学習の総まとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 南風原文化センターからいただいた見学記録シート

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>○本時の学習内容を確認する。</p> <p>○前回の授業で、ケンイチの立場になって考察した回答を確認し、内容を思い出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前回の授業で視聴したアニメ動画の登場人物になって、「自分だったら…」という視点をもって「移民」を通して「共生」について考察していくことを告げる。 ◆ 授業の最後に、本時の学習内容を自分なりに解釈し、イラストと言葉で表現することを告げる。 ◆ 前回、生徒からでた回答を板書し、共有させる。 	<p>・自作プリント④</p>
展開 A 10分	<p>【「ファビオだったら…」編】</p> <p>○各自で考察した結果を、隣近所の人と発表し合い、自分の回答と仲間の回答の相違点に気付く。その際、必ずそう考えた理由を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「私は、もし自分がファビオだったら、()して欲しいと考えました。その理由は、()です。」 <p>○考察を通して、同じクラスのメンバーでも、様々な考え方があり、答えは一つではないことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の回答と仲間の回答を比較させ、多様な価値観・感じ方があることを尊重し合い、考察していくことを告げる。 ◆ 生徒の考察結果を板書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視点が異なる回答が複数出たら、グループ分けする。 ◆ 逆の立場にたつと、どのように感じるのかを体感させる。 ◆ グループ内で、「ケンイチ」と「ファビオ」に分かれるように指示を出す。 	
展開 B 20分	<p>【SDGsについて】</p> <p>○グループで、ケンイチとファビオのそれぞれの立場にたち、「どのカードが一番大事だと思うか(一つ選ぶ)」について話し合った後、グループとしての考察結果を発表する。その際、必ず理由を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「私たちのグループは、ケンイチまたはファビオの立場にたつて()を選びました。その理由は、()です。」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ グループごとの考察結果を板書する。 ◆ 回答を見出すことができなかったグループがあってもよいことを告げる。 	<p>・SDGsのカード</p> <p>・SDGsの動画</p>



「そういう考え方もあるのね！」



「このカードは一体何なんだ!？」

まとめ OSDGs の内容と設定された意図を理解する。
15分 ○「もし、自分だったら…」という視点にたち、自分なりの SDGs を作成する。
○世界の「移民」にまつわる諸情勢に関心を持ち、世の中で起きていることを我が事として捉え、考える力を養う。



「おっ、その意見、いいね！」



「18 個目の SDGs をつくろう！」

○本時のまとめを記入することで、これまでの学習を振り返る。

- ◆ このカードが SDGs であることを告げ、SDGs の説明をする。
- ◆ 自分なりの SDGs を作成することで、地球市民としての自覚を芽生えさせる。
- ◆ SDGs を作成することで、本時の学習への理解を深めさせるとともに、次に挙げる移民学習の意義を学びとらせる。

①沖縄の歴史の中に、「移民の歴史」があり、現在のブラジルと日本の関係を知る上で欠かすことのできない歴史であること。

②「自分だったら…」という視点で世界の諸問題に対して自分なりの考えを持ち、行動することの大切さ。

③「共生」・「異文化理解」は外国とのことだけではなく、すぐ隣に座っている友達と暮らしていくことにも当てはまるということ。

- ◆ 修学旅行で、南風原文化センターを見学する意義を見出させる。
- ◆ 本時のまとめ・感想を記入させる。

・生徒が作成したコラージュ(沖縄編)
・生徒が作成した壁新聞

【6】本時の振り返り

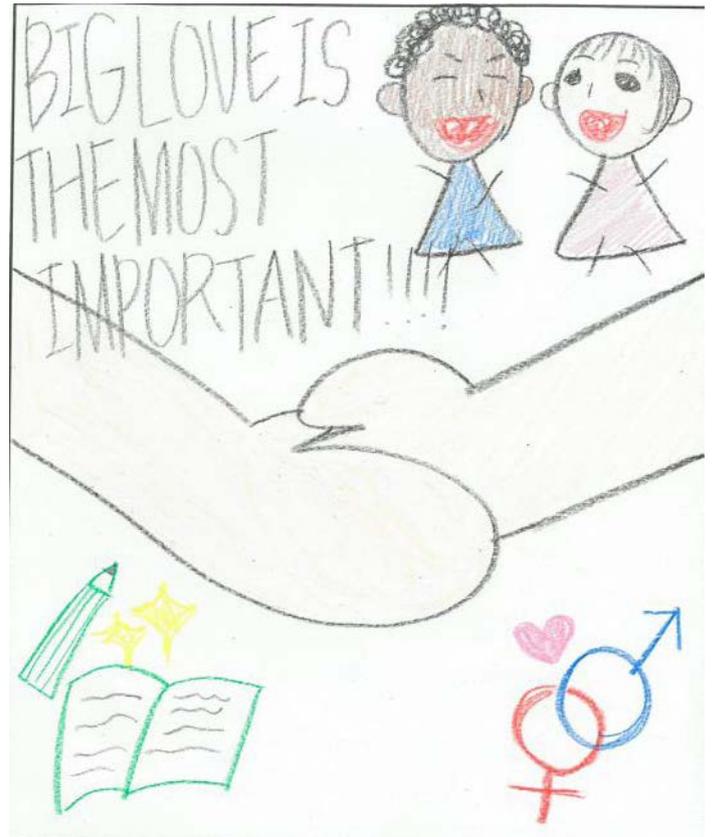
「自分だったら…」という共感的な学びを通して、「共生」や「異文化理解」について考えることを、この時間のねらいとした。それぞれの立場にたつて SDGs を選ぶ場面では、「ケンイチはこれだよね!」、「ファビオはブラジルから来たんだから、ブラジルにはこういうのが必要じゃない?」などと、様々な意見が飛び交い、白熱した議論が展開された。意見が対立したグループもあったが、お互いの意見に耳を傾け、納得するまで話し合い、グループとしての見解を導き出すことができた。それぞれのグループが選んだ SDGs を並べ、「色々選んでくれたね。でも、先生は、移民に関して、これだ!と思うものがないんだよね。だから、みんなだったら、どれを選ぶか教えてもらいたかったの。」と切り出し、「これまで学習したことを踏まえて、移民について自分なりの18個目の SDGs をつくってみよう!」と呼びかけると、生徒たちはそれぞれ自分なりの SDGs を作りはじめた。時間内に完成させることはできなかったが、作業に取り組む様子から、生徒たちなりにこの実践授業を「解釈」していることが感じられた。

【7】単元を通した生徒の反応/変化

生徒が作成した「18 個目の」SDGs の一部作品



男子生徒



女子生徒

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

この実践をするにあたり、生徒たちからは「どうせ先生がブラジルに行ったからやらなきゃならないでしょ!」、「私たちを実験台にするでしょ!」という批判的な発言が多く、生徒たちに「何のためにこの授業をするのか」を納得させることから始まった。この実践が「修学旅行の事前学習の一環」という意味合いがあったため、生徒たちは「なんで沖縄の事前学習なのに、ブラジルのことを勉強するの?」と不思議がりながらも、コラージュ作成や調べ学習に取り組んだ。

最初の授業の中で、「あなたのグループは、日本とブラジルの関係をどう思いますか?」という質問に対し、すべてのグループが「遠い」と回答した。その理由は、国同士の関係というよりは、地理的な面でのイメージが先行しており、このように回答したことがわかった。それ程、この実践をはじめた頃の生徒たちには、「ブラジルと日本」の歴史的なつながりや、両国の間を繋ぐ「日系人」の存在について、知識がなかった。

実践をはじめた頃、丁度日本史 A の授業で「松方財政」や「琉球処分」について学習しており、「移民」と当時の日本の状況とを重ねて捉えることができたと思う。

生徒の変化を感じられたのは、3 回目に実施した『「日系人」って?』の授業で、日系人の功績について学習した時である。ブラジルの例としては、山梨県出身のノーベル賞受賞者大村智さんの授賞式でのエピソードを挙げ、この他に、ハワイの例（空港名変更）を挙げた時、「へえ、すごいじゃん!」という発言が多くあり、生徒たちが関心をもったことが窺えた。

公開した実践授業 4 回目では、「自分事として考える」という共感的な学びの中で、自分と違う意見にも耳を傾け、話し合う活動を通して、以下のような感想をもつ生徒がいた。

- ・他人事と思わず、皆で手を取りあうことで皆が幸せになれると思うし、思いやる心が大切なんだと改めて感じた。
- ・今日の授業では、自分の意見を言うことが多く、他の班と違う意見だったり、同じ班の中でも違う意見の人がいておもしろかった。
- ・自分と違う意見で、共感するところもあった。

・マークで表すのは難しいけど、いい経験だと思った。今後、国際のことをもっと知りたいと思う。外国の問題のことについても関心もちたい。

・SDGs というものをはじめて聞いて、あたり前みたいな事もあるけど、今の世界をみるとできていないことばかりなのかなと思った。

・私も国際目標が達成できるよう、貢献したいと思う。

最初は「やらされ感」があったことは否めないが、この感想を見ると、今回の実践から生徒たちは「普段の授業では学ぶことができないことを学びとり経験できた」と確信した。

【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

【実践者】

本校は県内他校と比べて、外国籍の生徒が多く在籍している。そのため、開発教育の実践を通して、生徒たちに「共生」や「異文化理解」の大切さを伝えていくことは、急務であると感じる。また、このような環境で勤務する我々教員も、開発教育の手法を学び、果敢に実践していく姿勢が求められていると強く思い、この研修に参加した。

【生徒】

生徒たちの様子を見てみると、外国籍の生徒を特別視することなく、仲間の一員と認識して生活しており、生徒たちの間では「共生」や「異文化理解」が成立しているように見える。その理由としては、「足が速い」や「母国語がしゃべれる」といった「自分とは違う能力をもつ存在」として受け入れており、「外国籍の生徒はかわいい子やかっこいい子が多い」という羨望もあるようだ。他県ほど、生徒たちの身近なところでトラブルがないため、「デカセギ」と聞いてもピンとこない生徒が多いという現実がある。しかし、学年の約3分の1が就職を希望する本校において、近い将来生徒たちが社会に出たときに遭遇するであろう事態に対応できる資質や能力を身に付けさせることが、人生最後の「学校」から巣立つ生徒を送り出す我々教員に課された任務だと思う。

(授業後)

【実践者】

この研修を受けるまで、「異文化」＝「外国」という先入観があったが、国内にも、そして私たちの身近なところにも「異文化」はあることを再確認した。そのため、この観点は学級経営にも応用できると改めて感じた。

【生徒】* 授業後の感想より

・差別や言葉の壁をなくそうと思った。

・国は違っても心があれば通じる。

・世界全体が日本のように豊かに過ごせるようにして、日本は他の国のようにぜいたくをしないようにするべきだと思う。

【8】自己評価

1. 苦労した点

■ 実践時間の確保

すでに決まっている年間指導計画がある中、この実践を割り込ませることは、至難の業であった。年度初めに、「いつ、どのように実施するか」を決めておかないと、年度途中から実践しようとしても、時間を確保することは難しいと感じた。

■ 実践環境

総合的な学習の時間やLHRの計画に、「国際」を扱う時間が設定されていると実施しやすかったのではないかと感じた(本校の2年次生の年間指導計画にはなかった)。また、同僚の先生方にも、「一緒にやりましょう」と呼びかけやすいと思った。

2. 改善点

- 本校は進学校ではないため、資史料の読み取りや解釈を取り入れることはしなかったが、進学校や国際コースが設置されている学校であれば、挑戦できることは多いと感じた。

- 時間の関係で、「還流」について取りあげるができなかったため、移民学習としては完結していない実践となってしまった。

3. 成果が出た点

- 日本史の授業の中で、「移民」を教えることができたことは、大きな成果となった。
- 生徒達が「無関係」だと思っている「ブラジル」と「沖縄」を、「移民」というキーワードでリンクさせたことで、修学旅行の事前学習にも応用することができた。

4. 備考(授業者による自由記述)

この研修に参加するにあたり、私には「沖縄への修学旅行の事前学習をこれまでにない切り口で展開したい」、「日本史の授業にも応用できる教材を開発したい」という大きな目標があった。そのため、「ブラジル研修を活かした実践」という観点では、「ブラジル」だけで構成した実践ではなかったため、不十分な実践であったと反省している。しかし、この研修に参加したからこそ、私自身がブラジルの日系社会を知り、その存在に大きな衝撃を受け、「地歴公民科の教員として、日系社会の存在とその歴史を伝えていくことが、この研修に参加した私の使命ではないか」との思いを強くした。今回の実践で終わるのではなく、私自身がこれまで以上に研鑽を積み、今回網羅できなかった内容を組み込みながら実践し続けることが、この研修に参加させていただいた私の役割だと思う。来年度以降、必ずなんらかの形で実践していきたい。

参考資料

- ・参加型学習教材『レッツスタディー！世界のウチナーンチュ』2017年
- ・参加型学習教材『CHAMPURREANDO』2012年
- ・浜下武志『沖縄入門ーアジアをつなぐ海域構想ー』ちくま新書 249
- ・「近代日本移民の歴史」編集委員会・編『ビジュアル版近代日本移民の歴史①』汐文社
- ・アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」浜松国際交流協会 HP より
http://www.hi-hice.jp/doc/aboutus/tomoiki_anime/index.html
- ・『日系移民学習の理論と実践ーグローバル教育と多文化教育をつなぐー』明石書店 2008年
- ・森茂岳雄、中山京子「付論 日米博物館との連携をいかしたハワイ日系移民に関する単元開発と実践：グローバル化教育と多文化教育の結合可能性ー(学習プログラムの開発と実践)」『国立民族博物館調査報告』2002年
- ・森茂岳雄、津山直樹「ハワイ日系移民の教材づくりに関する海外スタディツアーの教育的意義ー物語論的アプローチによる大学生の自己変容プロセスの分析を通してー」『海外移住資料館研究紀要』第10号
- ・森茂岳雄、中山京子「海外移住資料館を活用した国際理解教育の授業づくりー教師研修を通してみた移民学習の可能性ー」
- ・田中泉「多文化共生時代を迎えてー日系移民問題をどう教えるかー」『広島経済大学研究論集』第24巻第4号 2002年3月
- ・『ニッケイ新聞』記事多数
- ・長谷川義史『ぼくがラーメンたべてるとき』教育画劇
- ・醍醐麻沙夫『森の夢』パウロス美術印刷会社 1979年
- ・石川達三『蒼氓』秋田魁新報社
- ・NHK取材班『総力取材！トランプ時代と分断される世界 アメリカ、EU、そして東アジア』
NHK新書 520 2017年
- ・第一学習社『高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来』

本時で使用した主な資料(教材)

自作プリント③、④

本日のテーマ：「日系人って？」の巻

1) ブラジルにおける日系人の立ち位置を考察しよう！

Q. ブラジルで、日系人はどう思われているの？

●「リオデジャネイロオリンピックの開会式の映像」から、なにが分かるかな？

●大村智さんのエピソード「玉しき都の泡沫より」から、なにが分かるかな？

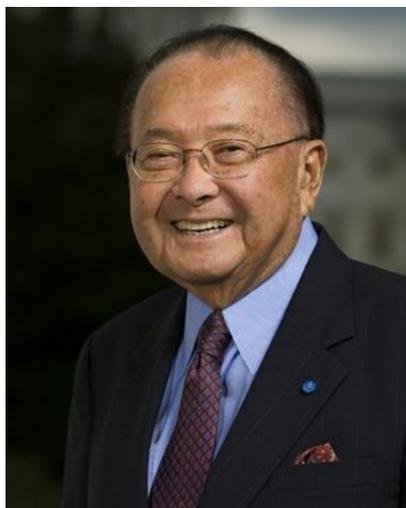
～（略）～ 授賞式が開かれた10日夜のノーベル・バンケット（晩さん会）では国王の姉のクリスティーナ王女、首相夫人に挟まれた席だった。話すテーマをあらかじめ考えておいたので、楽しく過ごせた。

～（略）～翌11日に王室が主催したロイヤル・バンケットでは、王が猟で仕留めた鹿が振る舞われた。これこそが本物のもてなしだと感じた。私の席はシルビア王妃と、女優のように美しいマデレーン王女の間になった。ブラジル人のお母さんをもつシルビア王妃は「ブラジルの桃は小さかったが日本からの移民が作るようになると大きくなった。勤勉で素晴らしい」とジェスチャーを交えて話してくれた。～（略）～



Q. ブラジル以外の移民先では、どういう評価なのかな？

●この2つの写真には、どんな関係があるのかな？



2) 「ケンイチ」の立場になって考えよう!

Q. 「自分がケンイチだったら何が出来る?」かな?

●私の考え

●お友達の考え



結論：

3) 「ファビオ」の立場になって考えよう!

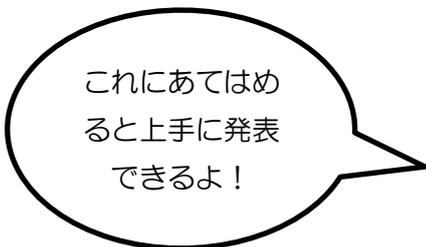
Q. 「自分がファビオだったらどうして欲しい?」かな?

●私の考え

●お友達の考え



結論：



私は、もし自分が () だったら、() と考えました。その理由は、() です。

本日のテーマ：「ケンイチとファビオの気持ちになって、18個目のSDGsをつくろう！」の巻

1) あなたは前回の授業で、「自分がケンイチだったら何ができる？」の質問に、何と答えましたか？

→前回のプリントを見直そう！

2) 今日は、「自分がファビオだったらどうして欲しい？」を考えよう！

→前回のプリントに記入しよう！

3) グループの中で、それぞれの立場にたってカードを選ぼう！

Q. 「ケンイチ」と「ファビオ」にとって、「最も大切」だと思うカードはどれかな？

●私たちのグループの考え

・私たちのグループは、「ケンイチ」の立場にたって _____ を選びました。

その理由は、 _____ だからです。

・また、私たちのグループは、「ファビオ」の立場にたって _____ を選びました。

その理由は、 _____ だからです。

●他のグループの考え

・私たちのグループは、「ケンイチ」の立場にたって _____ を選びました。

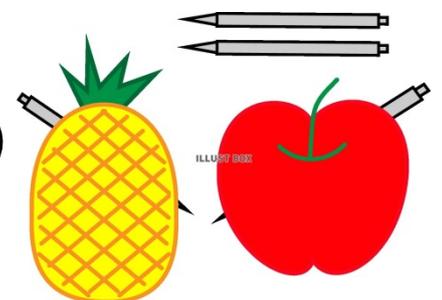
その理由は、 _____ だからです。

・また、私たちのグループは、「ファビオ」の立場にたって _____ を選びました。

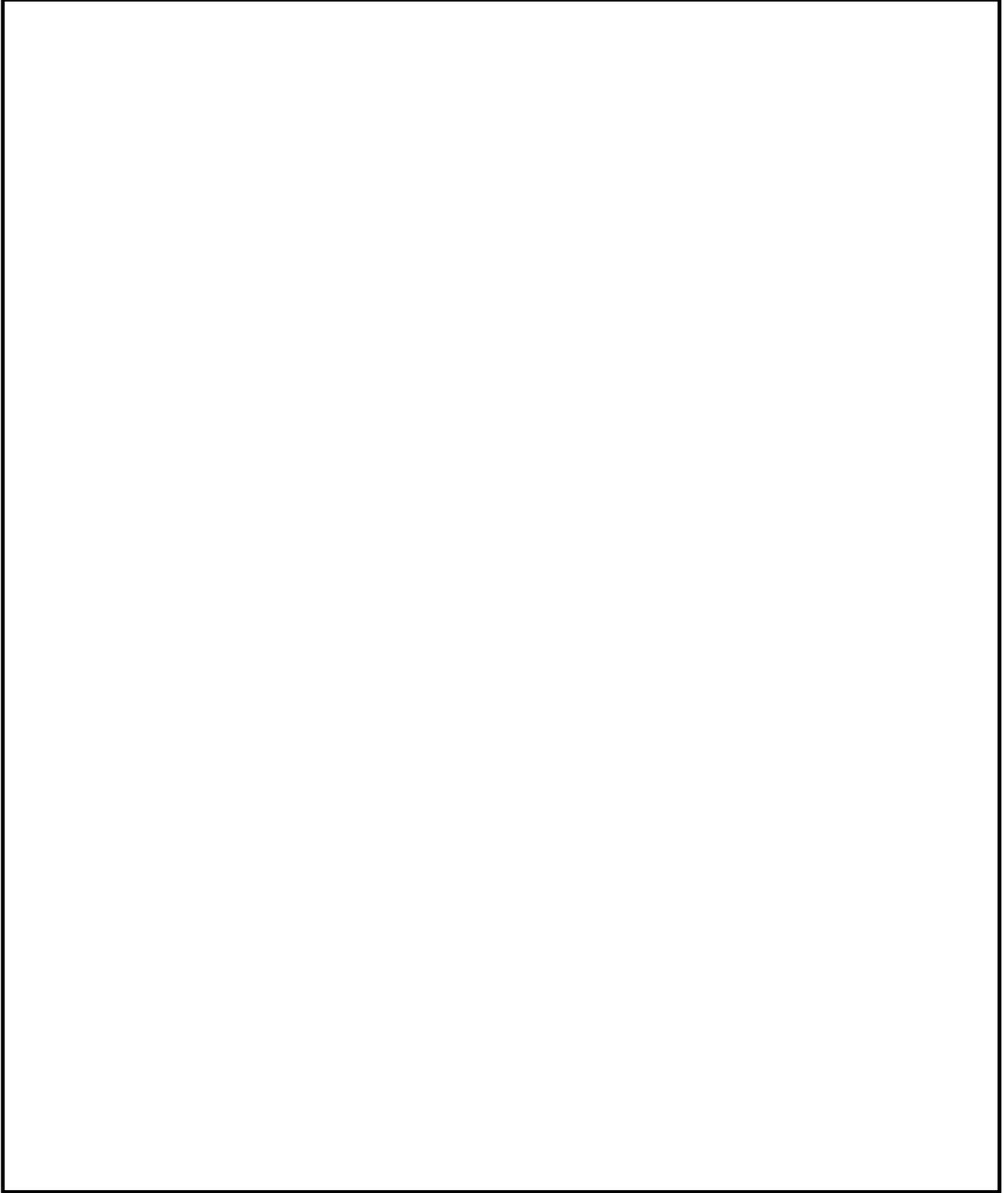
その理由は、 _____ だからです。

4) この、17枚のカードは一体なんだろう？

これは、 _____ といって、2001年に策定された
ミレニアム開発目標（MDGs）の後続として、2015年
の国際サミットで採択された「持続可能な開発のための20
30アジェンダ」に記載された2016年から2030年
までの _____ です。



5) 上記の考察を踏まえて、「ケンイチ」と「ファビオ」の両方の立場に欠かせないことを、「キャッチフレーズ」と「ロゴ」で表現しよう!



6) 今日の感想

